

# 提 案 概 要

実施期日	8月1日(金)
部会名	中学校 国語部会

1 提案テーマ 『テストが変われば授業が変わる』 ～生徒に学力をつけるテストとは～

2 単元(題材) 読むことの題材

3 学年 第1・2・3学年

4 平成25・26年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

②指導と評価の一体化・評価方法等の工夫による授業改善

5 学習指導要領との関連(内容項目)

第2章 第1節 国語 第2 各学年の目標及び内容 2内容 C読むこと

6 実践に向けての課題意識

「指導と評価の一体化」が大切であると言われる。私たち教師は授業において「目標」を決め、その目標を達成するために計画を立て、指導実践を行い、その結果を評価している。評価資料は、授業におけるワークシート・発言の様子・小テスト等の授業の中での評価と定期テストである。本研究では、テスト問題に視点をあて、そのあり方を研究することで国語科の学力を高めるための学習評価について考え、目標の明確化、評価基準の妥当性を図り、日々の授業の改善に役立てたい。

7 実践の概要

市内の国語教師、若手の教師4名とベテランの教師4名の8人グループで研究を進めることにした。グループ研究は、互いの実践の交流を通して、より確かで効果のある指導のあり方を追究・共有することができ、研究成果を自校だけでなく、市内に波及できると考えたからである。各自の実践を基に次のように研究を進めた。

第1回研究会(1月)…「指導と評価の一体化」について話し合い、評価から指導へという逆向きの研究「テストが変われば授業が変わる」という研究課題を決めた。

第2回研究会(3月)…学習評価についての課題(評価論)について学んだ。評価の目的は、学習した成果を評定することだけではなく、生徒に学力を付けさせることであり、教師が授業改善を進めるために生かしていくという学習評価の本質を確認した。その後、各自が持ち寄った「読むこと」の領域で作成したテスト問題を検討した。

第3回研究会(6月)…第2回で出た課題を基に、作成したテスト問題を再度検討した。その中で、問いの文章の正確さ、配点、学習目標自体の妥当性、作成した問題が評価する上で適切かどうか等、様々な課題が明らかになった。テスト問題の妥当性の検証を重ねることが「生徒に学力を付ける、到達目標を明確にした授業づくり」につながるという共通理解を図ることができた。

8 成果と課題

この共同研究で目指したことは、これまで私たちが「正しい」と思い込んできた『経験則』に基づくテストではなく、授業を通して、生徒に学力が確かに身に付いたかを検証できるテスト、結果を生徒のためだけではなく、私たち教師が授業改善を行う資料として活用できるテストとはどのようなものかを追究することであった。

研究を通して、テストを含めた学習評価について再確認する中で、テストは100点満点でなければならないという意識や、平均点を生徒に知らせるといった考えを払拭することができた。また、生徒の解答を評価する私たち自身の評価能力を高めることの必要性も明確になった。「テストが変われば授業が変わる」という考え方に基づいて、学力を高めるテストと授業のあり方についてさらに研究を進めていきたい。

9 予想される協議の柱

国語科の学力を高めるための学習評価